

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第15週（4月11日～4月17日）

## 今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加」

第15週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は663例であり、前週比25.3%増であった。定点当たり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.43、0.28、0.26、0.14、0.10である。

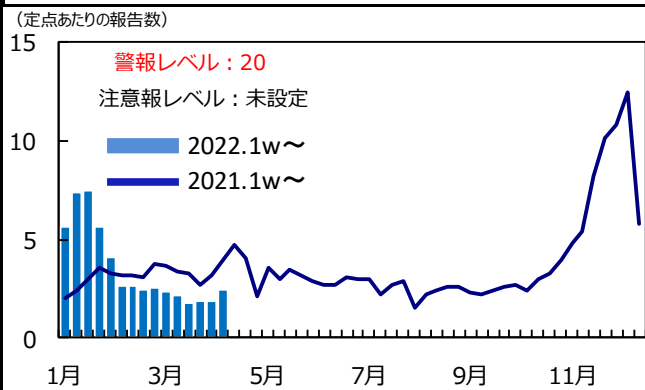
感染性胃腸炎は前週比31%増の479例で、南河内5.13、北河内・泉州2.65、中河内・大阪市南部2.50であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増減なしの52例で、中河内0.75、泉州0.50、堺市0.32である。

RSウイルス感染症は460%増の28例で、大阪市西部0.70、南河内0.44、中河内0.40であった。

咽頭結膜熱は27%増の19例で、大阪市西部0.40、南河内0.25、大阪市北部・堺市0.21である。

感染性胃腸炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

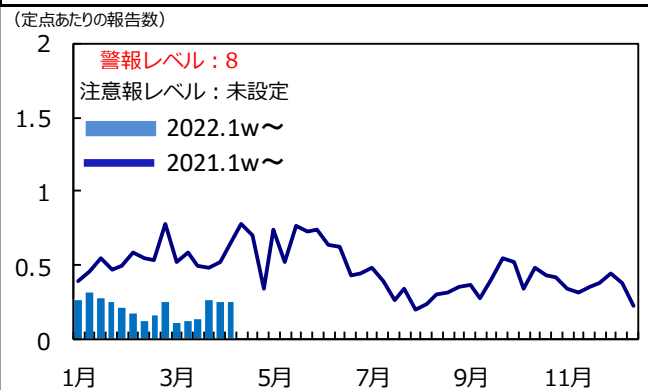


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第15週4月11日～4月17日）

第15週の順位	第14週の順位	感染症	2022年 第15週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第15週の 定点あたり 報告数	2022年第15週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.43	31%増	3.95	1歳_20%
2	2	突発性発しん	0.28	5%減	0.35	1歳未満_45%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	0%増	0.66	3歳_23%
4	8	RSウイルス感染症	0.14	460%増	3.19	1歳_39%
5	4	咽頭結膜熱	0.10	27%増	0.15	1歳_42%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

## 第15週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

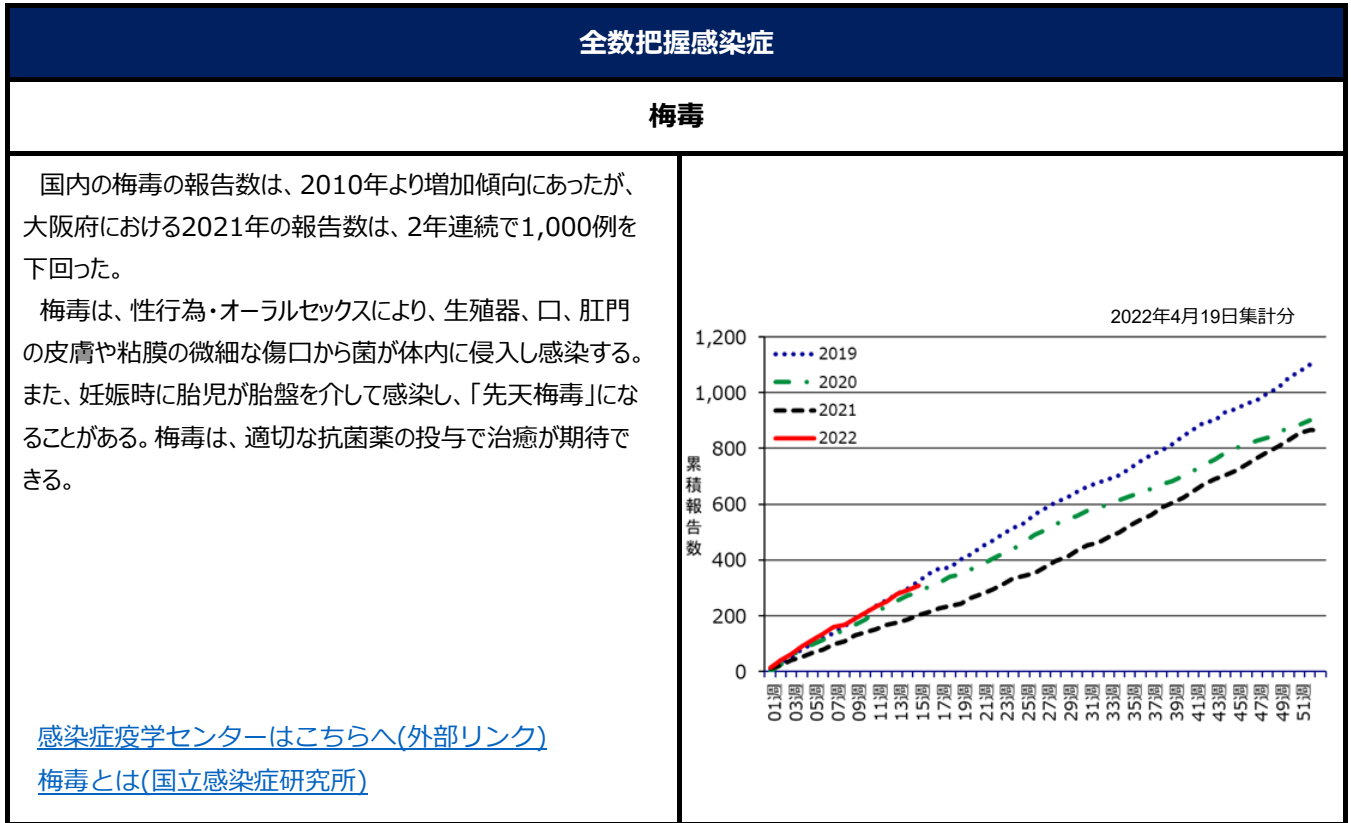


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第15週4月11日～4月17日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積報告数										
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1						1					9
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1										1	21
5類感染症	梅毒	15	1		2							12	308
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	25,973	2020年1月以降累計 858,790										
結核 (2022年2月分)	結核 新登録患者数：40名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 14名) (府内累積報告数 92名、内 肺・喀痰塗抹陽性 37名)												

(2022年4月19日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)